

# 2010年9月期第2四半期連結決算

---

2010年4月28日

株式会社三菱総合研究所

---

# 2010年9月期第2四半期のまとめ

**期初計画比：** 売上高・営業利益とも期初計画を上回る

- 当初予定に比べて完了時期が早まった案件もあり、計画比増収・増益

**前年同期比：** 増収・小幅減益となったが、減益幅は計画より大幅縮小

- (+) 一般産業： カード会社向け案件の増加、鉄道業向け新規大型案件の売上
- (+) 官公庁： 調査研究業務・システム最適化支援が堅調に推移
- (-) 金融機関： システム統合関連案件完了による反落
- (-) 民間コンサルティング案件： 景気低迷による減少

**受注の積み上り：** 計画通りに進捗

**通期業績見通し：** 期初業績予想から変更なく、前年度比増収・増益の見通し

## 第2四半期連結決算ハイライト

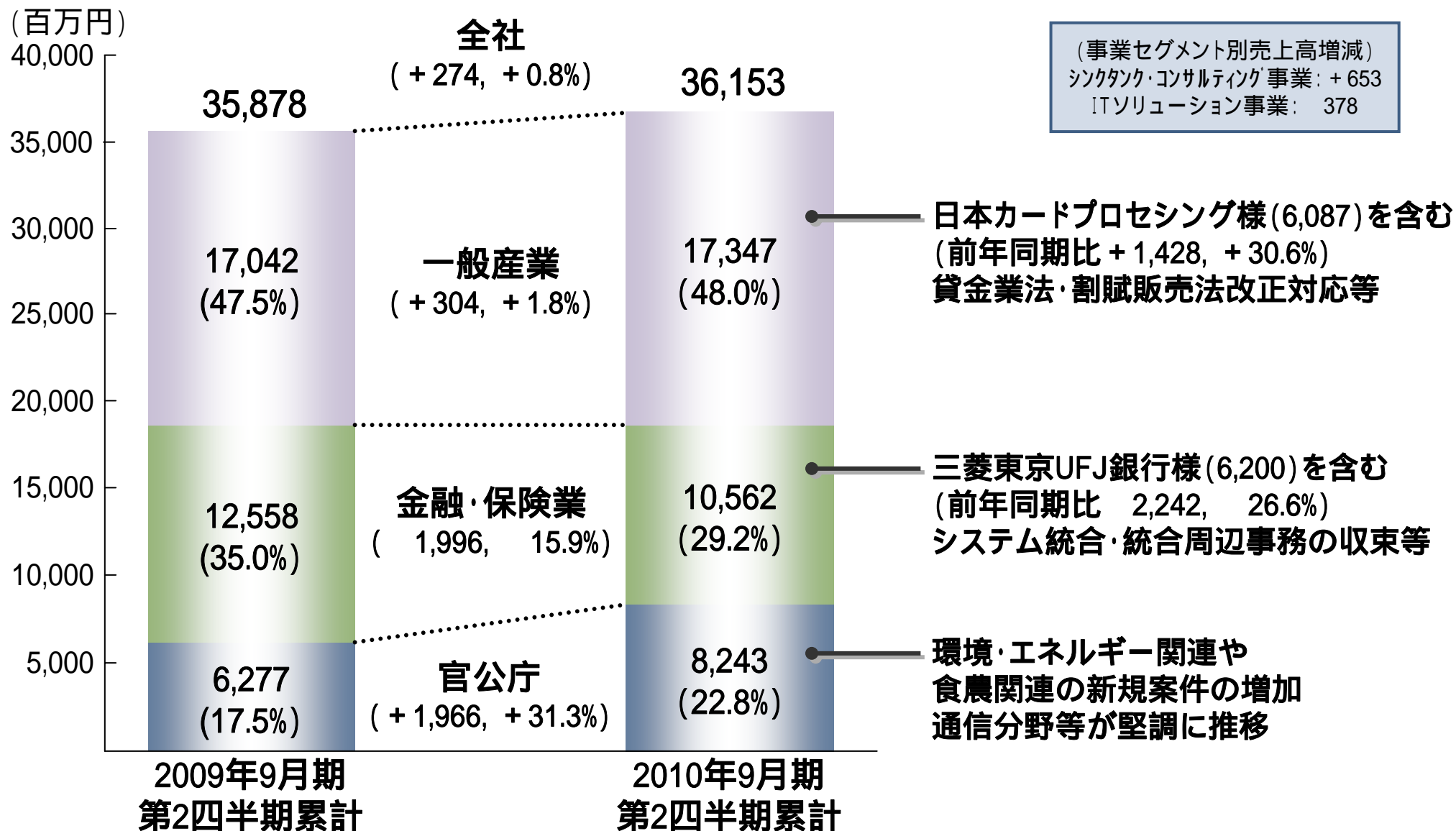
前年同期比大きく落ち込むと見ていた上期営業利益が、小幅減益にとどまり、通期計画の達成に向けて順調な経過。

(百万円)

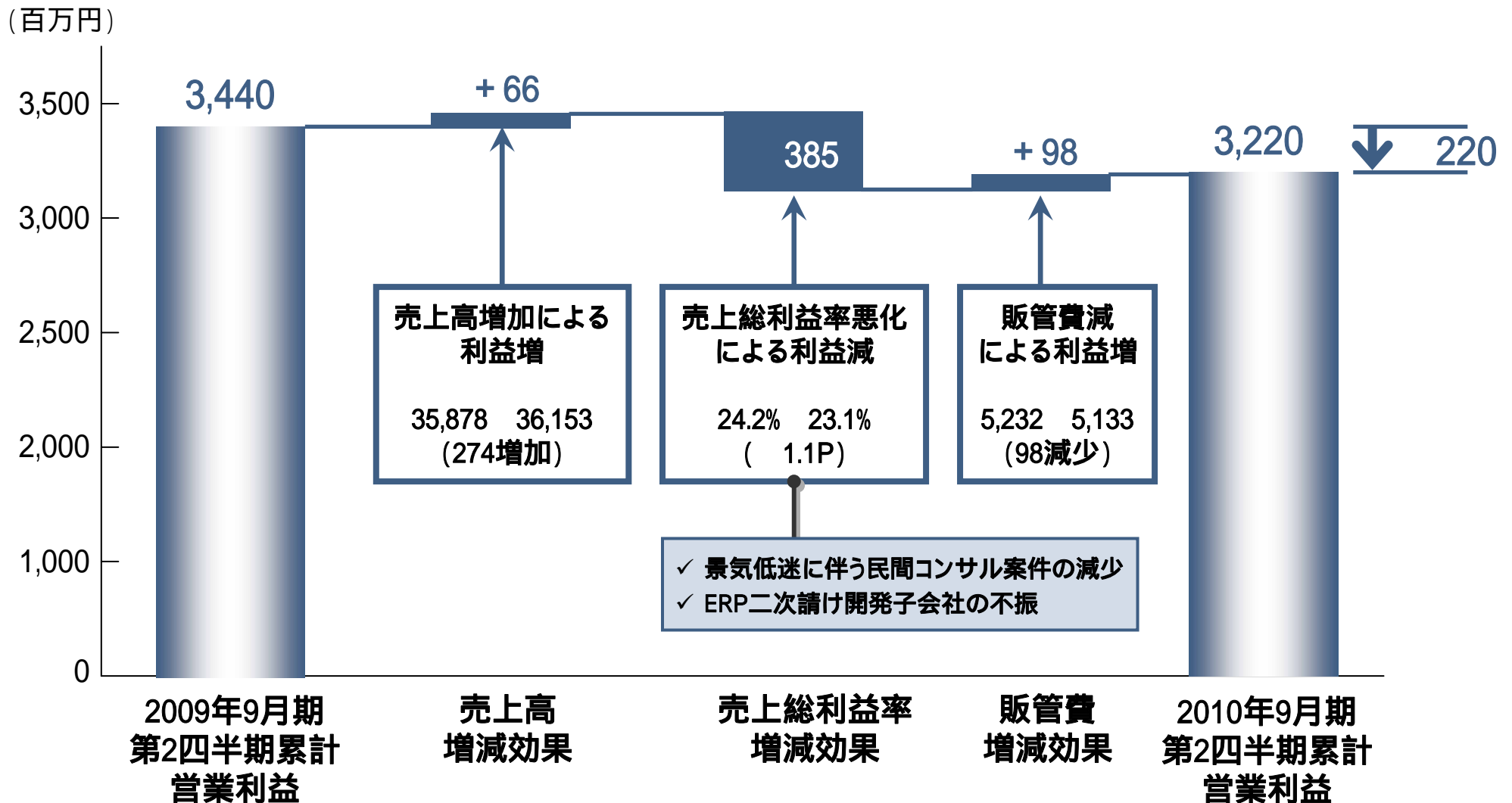
	2010年9月期 2Q累計(10~3月) 実績	期初計画比		前年同期比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	36,153	853	2.4%	274	0.8%
営業利益	3,220	700	27.8%	220	6.4%
営業利益率	8.9%	1.8P		0.7P	
経常利益	3,283	713	27.8%	190	5.5%
当期純利益	1,678	379	29.1%	75	4.3%
1株当たり当期純利益(円)*	102.21	23.06	29.1%	11.52	10.1%

\*1株当たり四半期純利益は期中平均株式数により算出： 2009年9月期2Q 15,424,080株、2010年9月期2Q 16,424,080株

# 顧客業種別売上高 < 前年同期比 >



# 上期営業利益の減少要因 < 前年同期比 >



# 下期営業利益計画 < 前年同期比 >

✓ 製造業・サービス業等での受注回復

売上高増加による  
利益増

37,602 38,847  
(1,244増加)

売上総利益率改善  
による利益増

19.5% 20.1%  
(+0.5P)

✓ 赤字案件損失の解消(前年度引当済み)  
✓ ERP二次請け開発子会社の持ち直し  
(2010年6月1日付で組織再編を実施予定)

(百万円)

2,500

2,000

1,500

2,004

+ 243

+ 212

190

2,270

販管費増  
による利益減

5,336 5,527  
(190増加)

+ 265

上期 220

✓ 上期 下期繰り延べ施策の実施  
✓ 本社移転関連経費の発生

2009年9月期

下期営業利益(実績)

2010年9月期

下期営業利益(計画)

# 2010年9月期 通期連結業績予想

11/9公表予想から変更なし

受注が堅調： 第2四半期末受注残高は前年同期を上回る水準

： 通期売上高予想の9割をカバーする受注を確保済み

従来予想から変更なく、2009年9月期に対し増収・増益を計画

(百万円)

	2009年9月期 (実績)	2010年9月期 (通期業績見通し)	前年度比 増減額	前年度比 増減率
売上高	73,481	75,000	1,518	2.1%
営業利益	5,444	5,490	45	0.8%
営業利益率	7.4%	7.3%	0.1P	
経常利益	5,573	5,620	46	0.8%
当期純利益	2,979	3,000	21	0.7%
1株当たり当期純利益(円)*	192.48	182.66	9.82	5.1%
1株当たり配当金(円)	30.00	(予定)30.00	-	-
連結配当性向	15.6%	(予定)16.4%	0.8P	

\*1株当たり当期純利益は期中平均株式数により算出：2009年9月期 15,478,875株、2010年9月期 16,424,080株

---

## 参考資料

---

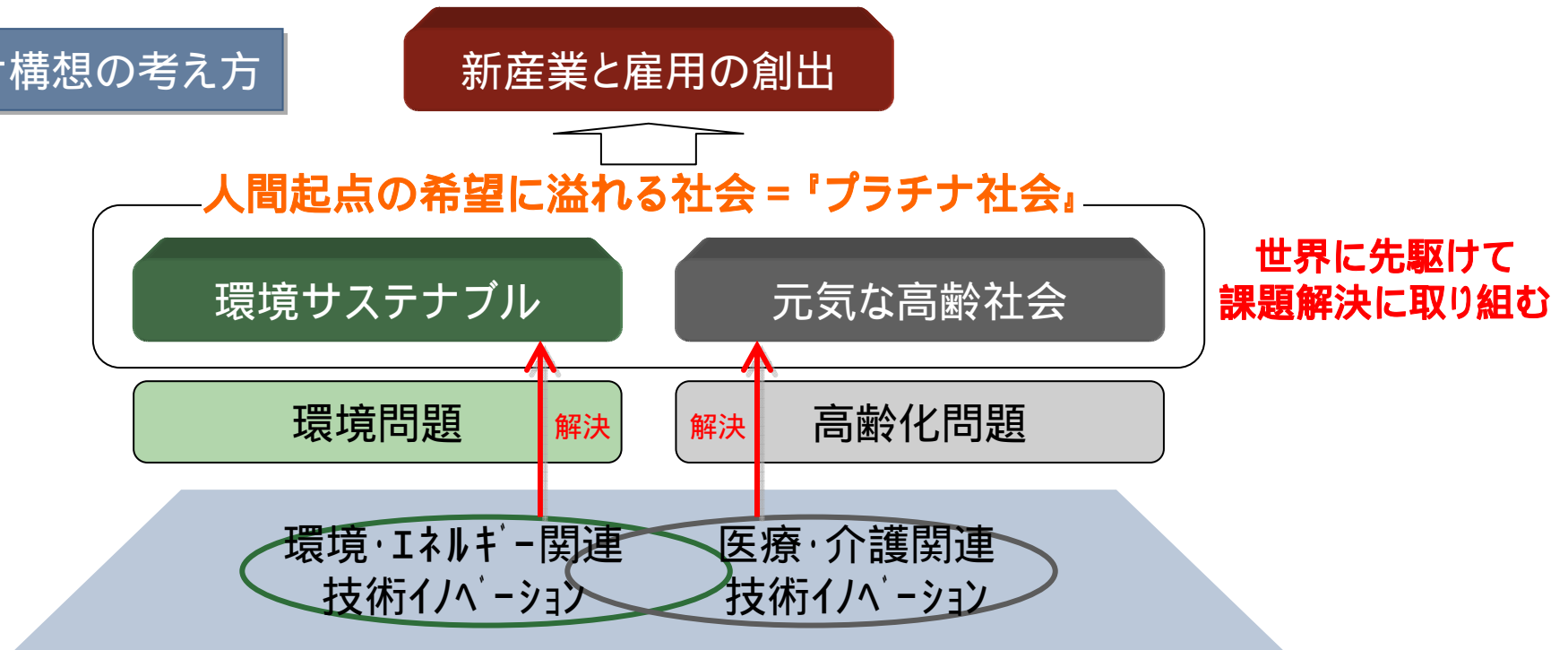
- プラチナ社会研究会発足について
- プロジェクト事例
- 出版物



# プラチナ社会研究会発足について

- 三菱総合研究所は、人間起点のより快適な社会『プラチナ社会』を創造することで、現在の閉塞感を打開する『プラチナ構想』を提唱
- 『プラチナ社会』実現には、官民連携、さらには市民も含めた国民的な運動として推進していくことが不可欠
- 2010年4月23日、『プラチナ構想』実現のための活動のプラットフォームとして、『プラチナ社会研究会』を発足、企業・団体から約300名が参加

## プラチナ構想の考え方



# プロジェクト事例～植物工場(産官学の連携による普及促進)

- わが国初の実態調査による実態把握～植物工場を成長産業とする基礎を確立
- 「農商工」連携と「産官学」連携を実現～具体的な実行計画策定に貢献
- 今後の「植物工場」産業界をけん引～日本ブランドとして輸出産業へ発展

## 「植物工場」成長過程

### 植物工場とは...

- 人工的な環境制御による植物の安定・安全供給
- 農業ビジネスへの異業種参入

実態把握  
50ヶ所  
独自調査

植物工場の定義  
LED 発電  
ロボット 省エネ

### ネットワーク形成・認知度向上

- 霞が関にモデルプラント設置
- 農水省・経産省横断の施策実現  
150億円(3ヵ年)の予算化
- 78社を集めた「植物工場研究会」

経産省 MRI 農水省  
事業化実現  
開発 導入 販路

## 今後の展望

### 産業界の自立・発展

- 業界自立支援
  - 技術開発
  - 販路拡大・輸出
- 個別企業コンサル
  - データ解析・マーケティング
  - 融資・金融商品開発



強み

1

シンクタンクとしての総合力  
「地域行政」「産業政策」  
「農業の業界知識」

2

農・商・工連携  
のコーディネート

3

産・官・学  
ネットワーク

4

先行者としての  
知見・知名度

M R I

# プロジェクト事例～住宅ローン信用リスク管理ソリューション

- 分析モデルの構築から運用・モニタリングまで一貫したサポート体制
- 地銀ではトップシェア(約50%)を有し、大量データ保有と分析スキルによる優位性確保



# 出版物

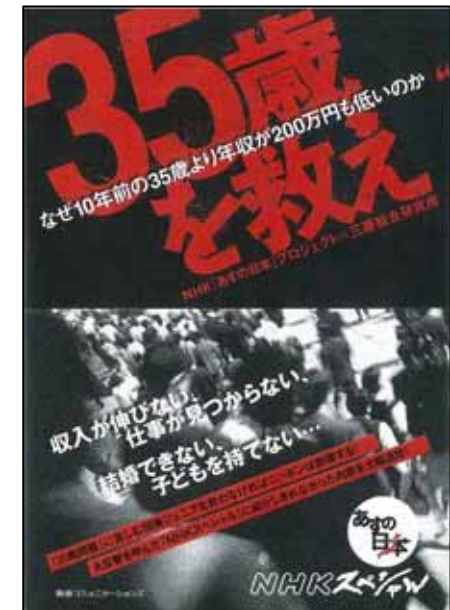


書籍名 『21世紀型新産業』  
 監修 三菱総合研究所 代表取締役社長 田中將介  
 編著 三菱総合研究所  
 発行日 2010年3月9日  
 発行 東洋経済新報社

年4回のシリーズ刊行  
 三菱総研の総合未来読本



書籍名 『Phronesis』 シリーズ第3弾  
 編著者 三菱総合研究所  
 発行日 2010年4月8日  
 発行 丸善プラネット



書籍名 『“35歳”を救え』  
 著者 NHK「あすの日本」プロジェクト  
 三菱総合研究所  
 発行日 2009年12月12日  
 発行 阪急コミュニケーションズ

### 将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。

### 株式会社三菱総合研究所 広報・IR部 IR室

TEL : 03-3277-0779  
FAX : 03-3277-0844  
E-mail : ir-info@mri.co.jp  
URL : <http://www.mri.co.jp/>